横浜YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.492 2019

YMCANews 4

2019年4月1日発行
（毎月1日・1回発行）
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行／公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721
横浜青年

3・11をわすれない…つながる 東日本大震災から8年

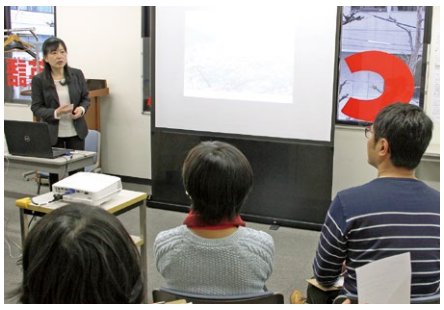
東日本大震災の発生から3月11日で8年を迎えた。死者は1万5897人、行方不明者は2533人、震災関連死は3701人にのぼる。現在も約5万1778人が全国で避難生活を続けている。（警察庁・復興庁）。横浜YMCAでは、3月11日の前後に「3・11をわすれない…つながる」をテーマに各YMCAにおいてトークイベントや街頭募金が行われ、これからの支援について考えた。

3月9日には、YMCA ACTにてトークイベント「看護師の私が福島に移住した理由」と題して、南原摩利さん（カリタス南相馬スタッフ）が福島の現状を語った。南原さんは、名古屋市で看護師として従事していた際に東日本大震災が起き、その年に、宮城県の気仙沼市の避難所で活動した。2013年に初めて福島を訪れ、現在はカリタス南相馬にて困難な状況にある人びとを支える活動として、ボランティアの受け入れや現地案内などを行っている。南原さんは、福島県で関連死が2千人を超えている現状から「孤独死を一人でも少なくしたい」と語る。福島県では、放射線の知識も必要と大学院で災害被ばくを学んだ。「原発事故による放射線災害は、長期避難生活により家族の離散、震災関連死の増加などさまざまな問題を招きました。福島で起きた問題は、日本全体で考えるべき課題だと感じています」と話す。今後の支援としては、心の復興として自立と自律に向けての支援やコミュニティーの再生が必要と語った。

▲東日本大震災以降、大自然の中で思いっきり遊んでもらおうと富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジに福島県の保育園や幼稚園の子どもたちを毎年招待

震災当日の3月11日には、横浜中央YMCAにおいて「3・11をわすれない…つながる 東日本大震災から8年目のつどい」を開催した。最初に震災直後からのボランティア派遣や神奈川県内に避難している子どもたちへの他団体と協働による支援などの取り組みが紹介された。次に「ふくしまの子どもたち」と題して、遠藤弘子スタッフ（YMCA山手台保育園アルク園長）から福島県の幼稚園や保育園の子どもたちが原発の事故により外で思いっきり遊べない子どもたちを大自然の中で遊んでもらおうと、2011年8月から横浜YMCAの野外教育施設である富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジに招待しているキャンプの報告があった。当初は、クレディスイスの協賛によって支えられ、2013年からは横浜YMCAの東日本大震災復興支援募金によって継続している。2019年3月までに1001人の子どもたちと引率の保育士などを受け入れている。その後、「ふくしまの現状」をテーマに1月に東日本地区YMCAスタッフ研修として福島県南相馬市、浪江町、双葉町を訪問した4人のスタッフが現地の様子を報告した。放置されたままの住宅や、立ち入りが制限されている写真などを紹介し「震災を忘れずに、つながり続けることが大切」と感想を述べた。

（関連記事3面）


▲放射線災害について学ぶ（YMCA ACT）

福島の現状や県内での活動を伝える写真展を各地で開催

2月末から3月にかけて横浜中央YMCAやYMCA ACT、横須賀市立市民活動サポートセンター（横浜YMCA指定管理者）などにおいて福島県の様子や県内に避難している福島県の人を招いた講演会などの活動の様子をパネル写真や文章で紹介した。支援を必要としている現状を伝え、3.11を忘れない、風化させない思いを共に強めました。

宮城県からのさんま250尾と物産展販売などで地域交流

3月10日に、東日本大震災復興支援活動として、横浜市舞岡地区センター（横浜YMCA指定管理者）では、「舞岡さんま祭り」が行われ約350人が参加しました。愛と勇気とさんま実行委員会が宮城県女川町からのさんま約250尾を焼き配付したほか、物産展、舞岡野菜の販売などによる売り上げの一部が東日本大震災復興支援募金に用いられます。

ホドス

ゴールデンウイーク（GW）とは和製英語だが、日本語としてすっかり定着している。今年のGWは天皇代替わりに伴う祝日も含め連続十日の、超特別大型連休になっている▼大げさに言えば日本人初体験の連休がやって来る。盛り上がっている人びとや業界もあろうが問題も多い。行楽地、交通機関、イベント会場等の混雑、それに対応する警備も未聞の規模になりそうだ。病院等医療機関も諸種多様な対応を迫られそうだ。銀行の長期休業も問題をはらんでいる。筆者も連休前は多めの現金を用意しておくべきかと迷っている。役所の長期閉鎖も不便を生みそうだ。連休中は異常事態への対応に不安を覚える▼日本郵便では昨年カレンダー通りに配達を休止し、連続四日間、速達・書留・荷物等をのぞく通常の郵便物が配達されなかった。今年はこれを踏襲せず、中に一日配達日を置き、通常郵便物の滞貨と流通混乱を避けると報じられている▼長期休暇の後も問題が出る。休暇中の疲れが吹き出して、勤労意欲、生産性が低下することが予想できる。「五月病」として知られてきた現象も多発が心配だ▼日本人の休暇は先進国に比べてまだ少ないとの指摘がある。休暇が増えるのは良いことだが、一斉の休暇は問題が多い。今後は休暇の分散化を望みたい。旅行、レジャー関連業界も顧客の分散平準化は歓迎のはずだ▼お互い空いた交通機関や行楽地でのんびりした休暇を楽しみたいものだ。（美）

YMCA NETWORK NEWS

横浜 ヘルシーキッズ 家族で健康考える

横浜ＹＭＣＡでは、子どもたちの健やかな心と身体を育む支援や、家族で健康について考える機会として「横浜ＹＭＣＡヘルシーキッズ＆ファミリーキャンペーン」を開催する。

キャンペーンは４月21日から県内にある横浜中央、北、湘南とつか、藤沢、横須賀、川崎、厚木、山手台、金沢八景の９つのＹＭＣＡにおいて運動を中心としたイベントを開催する。また、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に掲げられている目標にある「すべての人に健康と福祉を」の達成につながる取り組みとして、すべての人に運動の機会を提供することを目的とした体験会や講習会を５月まで実施する。

各ＹＭＣＡの詳細は「横浜ＹＭＣＡヘルシーキッズ」にて検索ください。

ヘルシーキッズサイト

４月から聖ヨゼフ学園 アフタースクールのサポート開始

生麦小学校放課後キッズクラブの運営を３月から受託

横浜ＹＭＣＡでは、小学生に放課後を安心して過ごしてもらおうと、放課後児童クラブ、横浜市からの運営委託としての放課後キッズクラブ、私立学校英和小学校アフタースクールを展開している。

２０１９年４月からは、新たに学校法人アトンメント会聖ヨゼフ学園小学校（横浜市鶴見区）アフタースクールのサポートを行うことになった。

聖ヨゼフ学園は国際バカロレア教育の認定校となっている。小学校のアフタースクールの運営は、アトンメント会傘下の法人が主体として行い、横浜ＹＭＣＡは、現場の運営に直接かかわるコーディネーター（常勤職員）の派遣や、アフタースクール運営のアドバイザー、プログラム企画立案などを担う。

聖ヨゼフ学園では保護者から、これまでの放課後の習い事を実施するセカンドスクールから、夜７時までの学童保育への要望が高まり、既存のセカンドスクールに学童保育の要素を加えた運営をすることになった。そこで、キリスト教の価値観に基づいた運営を進めるパートナーとして、横浜英和小学校アフタースクールの実績もある横浜ＹＭＣＡと進めていくことになった。

一方、横浜市では、２０１９年度末までに市内全ての小学校（３４１校）で「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を提供する「放課後キッズクラブ」の整備計画が進められている。２０１９年４月には42カ所が開設（予定）された。このうち、生麦小学校放課後キッズクラブ（横浜市鶴見区）は、２０１９年３月から公募により選定された横浜ＹＭＣＡが運営を受託し開始している。横浜ＹＭＣＡとして８カ所目の受託となる生麦小学校放課後キッズクラブは、至近距離にある横浜市生麦地域ケアプラザ（横浜ＹＭＣＡ指定管理者）と連携し、生麦地域における子育て支援、家族支援の輪を広げ、地域や学校と協力して子どもの育ちを見守り育んでいく。横浜ＹＭＣＡでは、２００３年から横浜中央ＹＭＣＡにて学童保育事業を開始、２００６年に本牧南小学校、続いて石川小、上飯田小、西が岡小、東戸塚小、菊名小、矢部小の放課後キッズクラブを継続して運営受託している。

▲3月から運営管理を行っている生麦小学校放課後キッズクラブ

Topics

歩行時の軸やバランスを測定 健康 未病改善フェア

3月3日に「かながわ女性の健康未病改善フェア」が横浜ワールドポーターズにおいて開催され、横浜YMCAは、未病改善Specialイベント「歩行姿勢年齢測定と健康運動指導士によるワンポイントアドバイス」を実施しました。

神奈川県では、「未病サミット神奈川宣言」に基づき、全ての世代の人が未病を自分のこととして考え、行動できるよう取り組みを展開しています。普段できないカラダのチェックをしようと、腸内環境や骨密度、脳年齢など各種の測定や相談などを参加した企業や団体が実施しました。

横浜YMCAの歩行測定ブースには、100人以上が参加し、6メートルを歩いた歩き方を測定し、身体の軸や足の運び、左右のバランス、ふらつきの度合いなどを測定し、数値と図によって出された結果を見ながらアドバイスを行いました。横浜YMCAでは、今後も未病改善につながる取り組みを推進します。

今月の「平和の川柳」

曇らせぬ
平和を見る目
問うこころ

荘子　隆さん　（一般）

子ども支援基金のためのチャリティーゴルフ開催

▲昨年を上回る109人が参加した子ども支援基金のためのチャリティーゴルフ

経済的な理由により横浜ＹＭＣＡで行うさまざまなプログラムに参加することができない子どもたち（青少年）の支援のために、横浜ＹＭＣＡでは「子ども支援（ＢＡＰＹ＝Be A Partner of the Youth）基金による支援を行っている。

３月８日には戸塚カントリー倶楽部（横浜市旭区）東・西コースにて「第４回子ども支援基金のためのチャリティーゴルフ」（工藤誠一大会委員長）が開催された。ＹＭＣＡ会員、賛助会企業、維持会員、ワイズメンズクラブ、関係企業・団体など１０９人が参加した。

大会では小松徹さん（男子）、浅葉糸香さん（女子）が優勝し、表彰式において特別賞と合わせて賛助会企業や団体、個人などからの献品による賞品と賞状が手渡された。また、吉原訓大会実行委員長は「昨年よりもさらに支援の輪が広がり心より感謝いたします」と述べた。寄せられた87万４千円は、子ども支援基金として用いられる。

横浜ＹＭＣＡでは、地域の企業や参加者とともに、子どもたちの置かれている状況を理解し、子どもたちの豊かな希望ある将来につなげていく。

♫子育てランド♪ 朝ごはんの工夫

朝ごはんを食べていますか？

朝ごはんは栄養素の摂取だけではなく、頭と体を目覚めさせ排便を促し体温を上げるというさまざまな役割があります。子どもも大人も、毎日元気に過ごすために朝ごはんは欠かせません。

朝の忙しい時間に朝ごはんを準備し食べさせるのは大変です。レシピの工夫や時短ワザを駆使し、毎日の負担を少しでも減らしましょう。例えば野菜がたくさん入ったオムレツや、混ぜご飯などにみそ汁を組み合わせることで簡単で、栄養もたくさんとれ、洗い物も少なく済みます。野菜は時間のある時に切っておくと調理の時間が短縮できます。冷凍野菜や乾物も上手く利用すると便利です。食パンにツナや卵、ハムをのせたり、ピザトーストにして、牛乳やスープ、果物をプラスできると良いですね。

栄養バランスを毎日考えるのは大変ですが、彩りを意識すれば自然と栄養のバランスは整います。色とりどりで見た目も楽しい、おいしい朝ごはんをぜひ作ってみてくださいね。

（YMCA東かながわ保育園
栄養士　亀井綾奈）

横浜 障がい超えて音楽を楽しむ

障がいのある人もない人も共に音楽を楽しもうと「第12回 輪和Waコンサート」が、3月2日に大和市保健福祉センターにて開催された。

2007年から大和YMCA運営委員会の発案により、輪和Waコンサート実行委員会（金井之広実行委員長）の主催で行われ、障がいのある子どもたちやその保護者をはじめ約300人が楽しんだ。コンサートでは、西口則子さん（ソプラノ）らが演奏を披露したほか、会場の来場者とともに、「花は咲く」を歌った。昨年に引き続き来場した親子は「毎年楽しみにしています」と話した。

3・11をわすれない…つながる 各YMCAでイベントや街頭募金を実施

16 平和と公正をすべての人に

「3・11をわすれない…つながる」をテーマに各YMCAでは、イベントや街頭募金を行った。3月10日には、JR戸塚駅ペデストリアンデッキにて仙台まつり宝山による「すずめ踊り」の演舞や戸塚地域にある4園のYMCA保育園の子どもたち、ソーラン魂in鳥が丘による演舞が披露され、保護者や市民とともに復興支援への思いを共にした。仙台からの一行には、前日に中学校の卒業式を終えた4人がおり、会場にて大きな拍手で卒業を祝った。午後には、湘南とつかYMCAにて「チャリティーコンサート」が行われ、第1部では、うたごえ広場に参加の皆さんが歌を披露、第2部にはクラシックコンサートが行われ、88人の参加者とともに被災地へ思いを馳せた。

同日、大和YMCAライフポートセンターでは「東日本大震災復興支援バザー」が行われ、大和市社会福祉協議会、民生児童委員、自治会、近隣の飲食店やグループホームなどからも参加があった。

また、各YMCAでは復興支援募金を呼びかけた。

▲仙台まつり宝山が「すずめ踊り」を披露（戸塚駅東口ペデストリアンデッキ）

▲東日本復興支援募金を呼びかけた（鶴見駅前）

こもれび

やっほーの響き合い

総主事　田口　努

川崎市立稗原（ひえばら）小学校の校歌だ。「ぞうさん」の歌で有名なまど・みちおさんの作詞だ。校名もその土地の風景もなく「どんどん、おぼえ、たすけ、しらべ、なおし、まどさん」作詞の保育園、幼稚園の卒園ソングで人気の「一年生になったら」を聞くとなるほどと思う。卒園式で何度も聞いた「友だち百人できるかな」は、喜びにあふれた小学校の入学に期待し胸が膨らむ子どもたちの姿がある。

小学校に行っても幼児期の宇宙に向かうよう大きくなること、成長、前進することの喜びにあふれた生活により、小学校に行っても、生きる力をどんどん育んでほしい、という願いが込められているように思う。

「やっほー」と子どもたちの笑い声がやまびこのように反響し合う学校や地域社会となるよう努めていきたい。

小学生だ　わっはっは
友だちだらけだ　すごいだろ
あたらしい　こと
どんどん　おぼえ
こまっている　子は
どんどん　たすけ
どんどん　どんどん　前進だ
大人へむかって
明日へむかって
やっほー　やっほー
地球は　いいな　わっはっは
風まで緑だ　がんばるぞ
わからない　こと
どんどん　しらべ
まちがってる　こと
どんどん　なおし
どんどん　どんどん　前進だ
宇宙へむかって
平和へむかって
やっほー　やっほー
（作詞まど・みちお）

宇宙にむかって、平和にむかって　前進だ」は、斬新だが大切なことが詰まっている。

「小学生だ　わっはっは、友だちだらけだ、すごいだろ」も本当にすごい歌詞だが、

FLASH NEWS

横浜YMCAが事務局となり1992年に始まったAIDS文化フォーラムはその後、京都、佐賀、陸前高田、名古屋の全国5カ所に広がり、各地と連携した運営を行っている。2月24日には各地の主催者が横浜YMCAに集まり、初めてのAIDS文化フォーラム広域連携会議を開催した。

AIDS文化フォーラムでは、エイズを取り巻く状況からさまざまな社会課題を見つけ、関係者がつながり、全国で開催することで多様なアプローチができてきたこと、連携の効果により、各地域で継続してフォーラムを開催できている効果が語られた。

第3回カンボジアYMCAスタディーツアーが2月18日から23日に行われた。横浜YMCAからスタッフ4人が、プノンペンのストリートチルドレンのためのラーニングセンターやシェムリアップYMCAチャイルドケアセンターを訪問し、子どもたちやスタッフと交流したほか、チャイルドケアセンターでワークを行った。

いじめ反対運動ピンクシャツデー 行政や企業とともに取り組む

5 ジェンダー平等を実現しよう　10 人や国の不平等をなくそう

いじめのない世界をめざそうと横浜YMCAでは、2月に世界的ないじめ反対運動「ピンクシャツデー」に取り組んだ。県内の全YMCAでは、ピンクの付箋にいじめをなくすためのメッセージを記入しポスターに貼り、ピンク色のシャツを完成させた。横浜中央YMCAアフタースクールでは、紙芝居や劇などでいじめられる側、いじめる側、傍観者の気持ちを考えた。

神奈川県や横浜市、企業、団体で組織するピンクシャツデー2019神奈川推進委員会（山崎美貴子代表推進委員・特別推進委員田口努横浜YMCA総主事）では、2月24日に横浜高島屋前、27日に新都市プラザにてイベントを行った。いじめで自死した子どもの保護者によるメッセージや、朗読劇「ハッピーバースデー」などが行われた。神奈川県内すべての小中学校にポスターとチラシが配布されたほか、マリンタワーなどがピンク色にライトアップされた。

横浜YMCAでは、この取り組みを日常的に子どもたちや大人、地域とともに考え、いじめのない世界を創っていく。

▲ピンクシャツデーに賛同するYMCA国際ビジネス専門学校の留学生のみなさん（川崎YMCA）

踊場地区センター 15周年感謝会開催

3月11日に横浜市内の地区センターで年間約20万人が利用している横浜市踊場地区センター（横浜YMCA指定管理者）15周年感謝会が開催された。

第一部では、清水臣湘南とつかYMCA運営委員から「隣人に喜ばれる活動を今後も広げていきましょう」とメッセージがあった。第2部感謝・交流会では、工藤誠一横浜YMCA理事長が「喜びと感謝の気持ちを持ち続けましょう」とあいさつした。また、踊場地区センターの運営をスタッフとして支えた地域の方に感謝の意を表し、大谷昭雄館長から花束が贈呈され、各スタッフから思い出や良きチームとして働けたことへのお礼の言葉が述べられた。最後に田口努横浜YMCA総主事が地域の方やスタッフへの感謝の言葉を述べた。

横浜市踊場地区センターは、2004年に全国に先駆け、横浜市初の指定管理者制度が適用された施設として横浜YMCAが管理運営行った。15年の節目を迎え、2019年3月をもって管理運営を離れ、今後は湘南とつかYMCAを中心に自治会や地域とのつながりを持ち活動を進めていく。

今年度会員総会 5月25日（土）開催

横浜キリスト教青年会会則第19条に基づき、2019年度横浜YMCA会員総会が5月25日（土）午後5時から湘南とつかYMCAで開催される。これに先立ち総会準備委員会にて金井之広委員長が選任され準備を進めていく。

会員総会では、2018年度の横浜YMCAの事業、決算報告のほか、2019年度の事業計画・方針、予算案について協議、常議員の選出、会員表彰が行われるほか、特別プログラムが行われる予定。

ワイズコーナー YMCAと いつも一緒

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ

ワイズの信条に「青少年のためにYMCAにつくそう」とあります。

横浜つづきワイズメンズクラブのメンバーは横浜北YMCAの運営委員会、また各種委員会にも属しており、チャリティーラン、バザーなどにも参加しています。You＆Iコンサートをはじめ CS（地域奉仕）活動が盛んです。月に2回の例会を行い、楽しい懇親会がありクラブライフを楽しみます。5月の例会は富士山YMCAで、10月の移動例会は三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジに行きました。2月の横浜北YMCAとの交流会では20代から90代まで約30名が集まりYMCAファミリーを感じます。

（横浜つづきワイズメン＆ウィメンズクラブ　会長 岡田勝美）

横浜中央YMCA	☎045(662)3721
横浜北YMCA	☎045(433)4321
藤沢YMCA	☎0466(26)1151
横須賀YMCA	☎046(834)5811
川崎YMCA	☎044(932)2031
厚木YMCA	☎046(244)4181
YMCA ACT	☎045(316)1881
鎌倉YMCA	☎0467(24)7859
YMCA山手台センター	☎045(813)1022
湘南とつかYMCA	☎045(864)4768
金沢八景YMCA	☎045(782)3003
YMCA東とつかセンター	☎045(392)3747
大和YMCAライフサポートセンター	☎046(264)3192
横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ	☎045(867)0090
横浜YMCAワークサポートセンターレザン	☎045(860)5252
YMCAあつぎ保育園ホサナ	☎046(222)8619
YMCA山手台保育園アルク	☎045(813)1022
YMCAとつか保育園	☎045(870)3663
YMCAマナ保育園	☎045(790)3588
YMCAとつか乳児保育園	☎045(870)3235
YMCAつるみ保育園	☎045(500)5030
YMCAかわさき保育園	☎044(520)1825
YMCAいずみ保育園	☎045(800)3010
YMCA東とつか保育園	☎045(820)5588
YMCA東かながわ保育園	☎045(440)3763
YMCAたかつ保育園	☎044(281)7833
金沢八景YMCA保育園	☎045(353)5130
YMCAオベリン保育園	☎042(707)9974
大和YMCA保育園	☎046(214)3192
富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ	☎0544(54)1151
三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ	☎046(888)2100
鶴見中央YMCA	☎045(508)7800
YMCAライフサポートセンター鶴見	☎045(506)0131
YMCAライフサポートセンター関内	☎045(680)6680
本部事務局	☎045(662)3721

INFOMATION

横浜YMCA

レクチャー

■イングリッシュセミナー
日　時　４月19日（金）午前10時～正午
会　場　鎌倉YMCA　201教室
テーマ　History of Kamakura, as seen by a longtime foreign resident
講　師　Francesco Baldessariさん
参加費　会員1,100円、一般1,400円
申込み　鎌倉YMCA　☎0467(24)7859

キリスト教理解

■聖書からの学び
日　時　４月25日（木）
午前10時30分～11時10分
会　場　湘南とつかYMCA　２階教室
講　師　堀野浩嗣氏（横浜戸塚バプテスト教会牧師）
テーマ　「主イエスと出会う」
参加費　無料
問合せ　湘南とつかYMCA　☎045(864)4768

■バイブルカフェ
日　時　４月24日（水）午後６時30分～７時30分
会　場　川崎YMCA21教室
講　師　青木　靖氏（登戸エクレシアキリスト教会副牧師）
テーマ　「人生のチャレンジと聖書」
参加費　無料
問合せ　川崎YMCA　☎044(932)2031

■聖書を読んでみよう会
日　時　４月23日（火）午後６時30分～８時
会　場　横浜中央YMCA６階教室
テーマ　「ヨハネによる福音書を読む」
参加費　無料
問合せ　横浜中央YMCA　☎045(307)7556

■聖書に聞く「旧約聖書が語りかけるもの」
日　時　４月19日（金）午前11時～正午
会　場　横須賀YMCA
テーマ　「種をまく人」のたとえ
参加費　無料
問合せ　横須賀YMCA　☎046(834)5811

イベント

■熊本地震ドキュメンタリー映画「西原村」上映会
日　時　４月13日（土）
午後３時～５時、午後２時30分開場
会　場　YMCA ACT
入場料　無料
定　員　30名（先着順）
申込み　YMCA ACT　☎045(316)1881
○当日の申込みの場合、残席数によりお断りする場合があります。ご了承ください。

■厚木YMCAヘルシーキッズデー
日　時　４月28日（日）
会　場　厚木YMCA
内　容　水中大運動会、カヌー体験会、室内サッカーなど
参加費　プログラムにより異なります。
申込み　厚木YMCA　☎046(244)4181

■横浜中央YMCAヘルシーキッズデー
日　時　４月30日（火・休）
会　場　横浜中央YMCA
内　容　ベビー・親子スイミング、ウォーターボール体験、トランポリン体験、親子体操、親子ヨガなど
参加費　プログラムにより異なります。
申込み　横浜中央YMCA　☎045(661)0084

■湘南とつかYMCAヘルシーキッズデー
日　時　４月30日（火・休）
会　場　湘南とつかYMCA
内　容　ファミリーアクア、かけっこ講習会、歩行測定・体組成測定、マシンルーム体験、食育講座など
参加費　プログラムにより異なります。
申込み　湘南とつかYMCA　☎045(864)4768
○横浜北、山手台、藤沢、横須賀、金沢八景、川崎の各YMCAでも行われます。プログラムの詳細や実施時間などについては４面上の各YMCAまでお問合せいただくか、各YMCAのホームページをご覧ください。

カルチャー

＜なつかしい童謡や唱歌を歌います＞

■北YMCA　うたごえひろば
日　時　４月９日（火）午後12時40分～２時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　北YMCA３階スタジオ
参加費　300円
申込み　北YMCA　☎045(433)4321

■湘南とつかYMCA　うたごえひろば
日　時　４月16日（火）午後２時～４時
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　湘南とつかYMCA１階ホール
参加費　300円
申込み　湘南とつかYMCA　☎045(864)4768

■藤沢YMCA　うたごえひろば
日　時　４月19日（金）午後１時15分～３時15分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　藤沢YMCA
参加費　300円
申込み　藤沢YMCA　☎0466(26)1151

■厚木YMCA　うたごえひろば
日　時　４月23日（火）午後２時～３時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　厚木YMCA
参加費　500円
申込み　厚木YMCA　☎046(222)8619

■生麦地域ケアプラザ　うたごえひろば
日　時　４月17日（水）
午後１時30分～３時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　生麦地域ケアプラザ（横浜YMCA運営委託）２階多目的ホール
参加費　100円
申込み　生麦地域ケアプラザ　☎045(510)3411

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会
日　時　４月17日（水）、26日（金）
午前10時30分～11時30分
会　場　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
対　象　横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
問合せ　横浜子育てサポートシステム中区支部事務局　☎045(663)0676

学校説明会

■横浜YMCA学院専門学校作業療法科
日　時　４月20日（土）午前10時～12時30分
内　容　学校説明会
申込み　☎045(641)5785

■YMCA健康福祉専門学校
日　時　４月13日（土）、20日（土）
午前10時～正午、*午後２時～５時
内　容　AO入試説明会、*学校説明会
申込み　☎046(223)1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校
日　時　４月20日（土）
午前９時30分～12時30分
内　容　スポーツクラブで実技体験
申込み　☎045(864)4990

ボランティア情報

■子育て応援ボランティア説明会
日　時　４月11日（木）午後２時～３時
会　場　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
問合せ　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
☎045(663)9715
○地域での子育てをお手伝いしていただける方を募集します。お気軽にご参加ください。

■ヘルシーキッズデーボランティア
日　時　４月21日（日）、28日（日）、29日（月・祝）、30日（火・休）
内　容　各YMCAで行われるヘルシーキッズデーのイベント運営のボランティア
申込み　４月19日（金）までに各YMCA健康教育部までお申込みください。
連絡先は４面上をご参照ください。
○子どもの健康づくりのお手伝いをしてみませんか。詳細は各YMCA健康教育部へ

My Story 111

人生が充実し他者に仕えよくなっていく体験を実感

横浜YMCA常議員
横浜中央YMCA運営委員長　荒井　仁

私とYMCAの最初の関わりは、恵比寿にある豊澤教会に赴任をしていた時でした。教会員に東京YMCAのスタッフがおられたので、子どもがキャンプのプログラムに参加しました。その後、鎌倉恩寵教会に赴任をした時に、鎌倉YMCAの当時の加藤誠館長が運営委員になってほしいと声をかけてくださいました。当初はあまり熱心ではなかったのですが、鎌倉YMCA創立60周年記念事業に関わることとなり準備委員会に加わりました。

鎌倉は市民活動が盛んな地域です。平和や教科書の問題などに取り組む方たちとの交流にも恵まれました。それらの活動に関わる人とともに鎌倉YMCAも平和について考える機会が与えられ、特に広島平和記念館の理事長をされていたスティーブン・リーパーさんを招いて市民向けの集会を開くことができたことは、平和都市宣言をした鎌倉らしい一時でしたし、地域とのつながりの大切さを学ぶ機会となりました。

もう一つYMCAとの結びつきを深めるきっかけとなったのはわが家の息子でした。発達障がいがあり進学先に悩みましたが、藤沢にあるYMCA高等学院で学ぶことができました。中学時代と違い、毎日、楽しそうに通う姿は、家庭に明るさを与えてもらいました。在学中に自分に合ったボランティアをしたいと、高齢者施設に行くようになり、介護の働きに関心を持ち、厚木のYMCA健康福祉専門学校で学び、今は介護施設で働いています。先生方や友だちが励まし支えてくださる様子が日々伝わってきたことに感謝をしています。やりたいことが「見つかる」、多様な人と「つながる」、自分の人生が充実して他者に仕えて「よくなっていく」体験をYMCAを通し家族にも与えられています。

▲平和を担う子どもたちとイースター礼拝をともに守る（2016年/YMCAあつぎ保育園ホサナ）

一昨年４月から桜木町にある紅葉坂教会に移動し、緑の少なさに寂しさを覚えます。夏季・冬季キャンプで自然とのふれあいを大切にするYMCAですが、日常的に自然と触れ合うプログラムの展開も期待しています。より多くの方がYMCAを通して豊かな人生を送られるよう願っています。

▶4月は新しい年度のスタートです。『互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る』ことにつながる働きを皆さまとともに進めていきたいと思います。（直）